

ごあいさつ

北海道教育大学附属旭川中学校 上田祐二

平素より本校の教育にご理解・ご支援を賜り、まことにありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症への対応が長期化しており、昨年度と同様、本校を開放しての教育研究大会は実施することができませんでしたが、「授業力向上セミナー」として各教科で動画による授業公開、オンラインでの研究協議を開催して参りました。助言者の皆様、ご視聴・ご参加くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。

本年度の研究は、「『質の高い学び』の創造」を研究主題とする2年次に当たります。詳細は「研究の概要（総論）」に譲りますが、協働的な学習環境の中で、学び手としての自立を図る確かな手だての開発を目指して、それを具体化する4つの視点のうち、各教科が重点を置く項目について研究・実践を重ねて参りました。本紀要は、その成果を取りまとめたものです。

授業の公開等がオンラインであったことはすでに申したとおりですが、そのことは対面方式の代替手段にとどまらない利点もありました。1つは、オンラインによる遠隔地からの参加が容易になったことです。道北だけを見ても広域のため来校していただくのは困難があります。オンラインでの実施によって、道北地域はもちろん、道内・道外の皆様にも本校の取り組みをご覧いただき、忌憚のないご意見・ご助言を賜ることができました。2つめとして、事前の授業動画配信によって、皆様のご都合に応じて本校の取り組みをご覧いただく機会を広げることができました。それだけでなく、動画を授業の事実として参照できることは研究協議の充実にも役立ちました。また、動画は視聴の間延びを避け、取り組みの意図を明確にするために編集を加えましたが、その作業は教員自身が自己の授業を振り返るよい機会にもなりました。さらに3つめの利点として、オンラインでの授業公開は、開催時期の自由度を高め、各教科が定めた研究視点において最適な時期に実践に取り組み、年間を通じてそれを公開することができました。こうした柔軟で継続的な取り組みは「学びのつながり」の重要性を意識した研究の推進に役立ったと思われまます。

コロナ禍にあっての教育・研究は、不自由な面も多々ありましたが、逆にこれまでのそのありようをとらえなおす契機ともなりました。まだ感染の終息は見通せませんが、いつかは落ち着くときが来るでしょう。そこからどのような教育・研究のあり方を切り開いていけるか、今後とも皆様とともに取り組んで参りたいと考えております。その端緒として、本紀要についてもご示唆をいただけましたら幸いです。